

## 資源教育におけるグローバル人材育成プログラム –タイ、カンボジアにおける School On the Move をもとに– ASEAN-Japan BUILD-UP Cooperative Education Program for Global Human Resources Development in Earth Resources Engineering

安井 万奈<sup>1\*</sup>; 島田 英樹<sup>2</sup>; 渡邊 公一郎<sup>2</sup>  
YASUI, Mana<sup>1\*</sup>; SHIMADA, Hideki<sup>2</sup>; WATANABE, Koichiro<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 早稲田大学創造理工学部 環境資源工学科, <sup>2</sup> 九州大学大学院工学研究院 地球資源システム工学部門

<sup>1</sup>Department of Resources and Environmental Engineering, Waseda University, <sup>2</sup>Department of Earth Resources Engineering, Kyushu University

文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の一環として「地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協同教育プログラム」が2012年度より本格的に稼働している。九州大学の渡邊公一郎教授が構想責任者としてプロジェクトリーダーを務める本プログラムは、「鉱物・エネルギー資源開発とそれに付随する地球環境問題に関わる分野で、日本とASEANの将来を支える地球資源工学分野のグローバル人材の養成を目指す」事を構想の要として、陸地から海洋にいたる資源開発とそれに関係する地球環境問題に関わる学術（以降「地球資源工学」という）分野で、日本・ASEANの学生が将来グローバルに活躍するために実践経験を積む「国際インターンシップ」、相互学生交流を強化する「スクールオンザムーブ」、高度研究者・技術者リーダーを養成するための「大学院ダブルディグリー」の質保証を伴う3つの学部・大学院ビルドアップ（積上式）協同教育プログラムを九州大学と国内外の連携大学とともに共同開発し、本格実施することを目的としている。

なかでも School On the Move (以下 SOM と略す) は本事業中で最も多くの学生が国内外に派遣され、交流するメインのプログラムである。修士課程の学生を対象とし、年度内に日本で1カ所、ASEANで2カ所、合計3カ所でそれぞれ10日間ずつのフィールド調査を実施する。それぞれの国の連携大学がホストになり、レクチャー、フィールドを企画し、Summer School 同様全て英語環境にて行われる。より専門性が求められるため、Mining/Mineral Processing、Geology/Geophysics、Geothermal、Petroleum に別れ、フィールドもそれぞれの専門に分けて行われる。本プログラムは期間中に開催される国際学会と並行して行われ、そこで全員が自身の研究を発表するのが参加条件である。学生同士の交流期間が長いために国境を超えた友情を育む事ができる。

学生の様子やプログラムの具体的な内容について、2014年度 SOM タイ及び2015年度 SOM カンボジアの様子を紹介するとともに、具体的な教育効果、問題点を報告する。

連携大学：九州大学、早稲田大学、チュラロンコン大学（タイ）、バンドン工科大学（インドネシア）、ガジャマダ大学（インドネシア）、フィリピン大学（フィリピン）、マレーシア科学大学（マレーシア）、ホーチミン市工科大学（ベトナム）、カンボジア工科大学（カンボジア）。協力大学：北海道大学。

参考 URL：<http://resource-tenkai.mine.kyushu-u.ac.jp/program/>

キーワード: 資源教育, グローバル人材育成, 国際学生交流, 日本－ASEAN

Keywords: Education Program in Earth Resources Engineering, Global Human Resources Development, International Master's Course Students Exchange, ASEAN-Japan